

市長からのメッセージ

昨年発生した東日本大震災は、地震に加え大津波、放射性物質流出と、私たちがかつて経験したことのない災害となりました。このため、西宮市では、阪神・淡路大震災の教訓や経験を生かしながら、被災地の復興支援のために、職員を長期派遣するなど総力を挙げて取り組んでいます。また、西宮市が平成15年に全国に先駆けて宣言した環境学習都市宣言の中に、「阪神・淡路大震災の経験を通じて、自然の力の大きさとその中で生かされている私たちの存在を改めて学びました」という一節があります。私はこのたびの東日本大震災の発生直後の4月、また今年の5月にも宮城県の南三陸町を訪問し、その被害と復興状況を目の当たりにしましたが、この環境学習都市宣言における文言は、まさにその通りであると再認識しました。

西宮市においては、平成24年度は新環境計画の折り返し点にあたり、平成25年度には環境学習都市宣言が10周年の節目を迎えます。地球温暖化について平成22年度から「持続可能な地域づくりE C Oプラン」の取り組みを開始し、また、生物多様性については、平成24年度から「未来へつなぐ生物多様性にしのみや戦略」の取り組みを開始します。子どもたちの環境学習の取り組みは浸透しており、その成果は少しずつですが、着実にあがっているものと考えています。

この環境レポートは西宮市で活躍されている市民・事業者の取り組みを中心にまとめたものです。是非ご覧いただき、西宮市ならではの活発な環境活動を知っていただくとともに、皆さまの環境活動のきっかけや一助となれば幸いです。

西宮市長 河野昌弘



西宮市の計画と環境学習事業

西宮市では昭和38年に「文教住宅都市宣言」、昭和58年に「平和非核都市宣言」を行い、それらの基本理念を踏まえ、更に発展させる形で、平成15年12月に全国初となる「環境学習都市宣言」を行いました。

この宣言を行うきっかけの1つとなったのが、平成4年より実施しているEWC(地球ウォッチングクラブ)事業です。主な取り組みの1つとして、EWCエコカードシステムがあります。市内の小学生にエコカードを配布し、環境学習や活動に参加すると、エコカードにエコスタンプを押してもらえ、一定数以上集まると、EWC事務局より「アースレンジャー」として認定されるという仕組みになっています。このEWC事業では、日常生活の中での「意識的な環境との出会い」を作る仕組みを作っています。

HP べんりナビ (環境) ▶ 環境学習事業 ▶ EWC事業



*さとみちゃん

「環境学習都市宣言」を具体的に実現していくための計画として「西宮市新環境計画」を策定しました。計画期間は平成17年度～平成30年度の14年間です。

「西宮市新環境計画」では8つの環境目標を定め、市民・事業者・行政の参画と協働により、取り組みを進めています。各世代・各主体が参加した取り組みが市内各地で行われており、環境レポートではそれらの取り組みを主体ごとに分けて紹介しています。

*さとみちゃん…EWCキャラクター



▲中学生以上を対象とした「持続可能な地域づくり市民活動カード」



▲小学生を対象とした「エコカード」



▲就学前の児童を対象とした「ちきゅうとなかよしカード」

8つの環境目標

- 学び** 学びあい 学びあう社会のしくみをつくり、地域の環境力を高めます。
- 参画** 参画・協働 各主体・各世代の参画により、自律と協働を基本とした環境活動を進めます。
- 生物** 生物多様性 山、川、海の自然環境を保全し、生物多様性を高めるための取り組みを進めます。
- 快適** 快適なまち 人や環境にやさしい人が住まう、快適なまちをともに創ります。
- 資源** 資源循環 資源循環のしくみを大切にする、社会経済システムを目指します。
- 温暖** 温暖化防止 地球温暖化防止に向けた取り組みを全市的に進めます。
- 良好** 良好な環境 良好な大気、水、土壌環境を次世代に引き継ぐため、あらゆる取り組みを進めます。
- 国際** 国際協力 世界の人々と手を携え、より良い地球環境を未来に残します。